



平成30年5月31日

発行 長野市立篠ノ井東中学校

人にやさしく、自分につよき
篠ノ井東中学校 創立五十五周年記念号、平成30年度第2号 州林状出書

〒380-8003 長野市篠ノ井小森 840 TEL 0262-292-0135 FAX 0262-292-0137
http://www.ngano-ngn.ed.jp/shinoh,jh/ E-mail shinonoihigashi@jh-naganongn-ed.jp

2年生 ハヶ岳農林業体験学習の実施

5月16日(水)に2年生の行事ハヶ岳農林業体験学習が実施されました。午前中の林づくり体験では、全員がヘルメットを着用し、森林の下草刈りなどの整備を行いました。午後のワークショップでは、昔の農家・酪農・養鶏・きのこ・チーズバター・ジャム・林業・炭焼き・木工の9つのグループに分かれての学習となり、それぞれ実践的な体験をしました。大自然の中で農林業に関わりながら、日常の学校生活では体験できない貴重な機会となりました。本校では、この行事をキャリア教育の一環としても位置づけています。すでに終了した3年生の修学旅行(奈良・京都方面)をはじめとして、7月に実施予定の1年生の妙高校外学習、2年生の職場体験学習などの大きな行事が計画・実施されています。



【養鶏】



【学年集合写真】



【きのこ】



【森づくり】

5月には様々な行事が実施されました

5月に入り、避難訓練(1日)、第1回授業参観・校長講話・PTA総会(2日)、鑑賞音楽教室(11日)など様々な行事がありました。また、体験入部、仮入部を終えた1年生の部活動発足会も終え正式入部となりました。25日(金)には、1・2年生中間テスト、3年生復習テスト②が実施され、1学期の前半が終わろうとしています。これからいよいよ6月、3年生にとって最後の夏の大会やコンクールを間近にひかえ部活動にもますます熱が入ってきています。現在は、読書旬間中でもあります。朝の静の時間からのスタートをきっかけに、「静」と「動」のメリハリをつけながら、落ち着いた1日を過ごしていく機会にしていきます。

6月の月目標「Fight」 ～燃えろ東中魂！最後の瞬間、その時まで～

桐の花



昇降口東にある記念樹【桐】が花を咲かせています。気づいている皆さんもいると思いますが、校章となっている桐の花です。



【第1回避難訓練】



【鑑賞音楽教室】



【全校応援練習】

5月 校長講話

皆さん、この人知っていますか。(写真提示)

そうですね。今年2月、韓国で開催された“ピョンチャンオリンピック”のスピードスケートで、金、銀、銅の3つのメダルを獲得した高木美帆選手です。高木選手は、3月、オランダで開催された“世界オールラウンド選手権”でも優勝しました。この選手権大会ですが、500m、1500m、3000m、5000mと短距離、中距離、長距離の全てを滑り、総合得点で順位を決める大会です。この大会で優勝した人は、一年間、クイーン・オブ・スケート（スケートの女王）と呼ばれるようで、伝統と権威のある大会です。そんな大会にも優勝した高木選手は、一躍世界から注目される選手となりました。

私は、これまでの高木選手の姿からいろいろ教えられたことがありますので、今日は、高木美帆選手のお話をします。

高木選手は、現在23歳で、東京にある体育大学の先生をしています。今から、8年前、高木選手が中学3年の時、カナダのバンクーバーで開催されました「バンクーバーオリンピック」に日本代表として出場しました。中学生での参加は、日本では初めてなので、日本中から注目されました。オリンピックでは、1000m、1500mに出場しました。しかし、現実には、甘くありませんでした。1000mでは、完走した選手の中で最下位という結果でした。活躍を期待されていたし、高木選手自身も大会に向けての手応えを感じていたため、大きなショックを受けました。初出場のオリンピックは、屈辱的な大会でした。しかし、「心のどこかで、オリンピックを甘く見ていた」と振り返った高木選手は、涙1つ流さなかったようです。

オリンピックという晴れの舞台上で屈辱を味わった高木選手は、4年後ロシアで開催するソチオリンピックをめざし、厳しいトレーニングに励みました。しかし、オリンピックの代表者を選考する大会では、結果を出すことができず、日本代表から外れてしまい、悔しい思いをしました。これまで、順調に選手として結果を出してきただけに、大きな挫折感を味わいました。この時ばかりは、悔しくて、スケートリンク裏の通路で人知れず泣き崩れたようです。

高木選手は悔しさをバネに、今回のピョンチャンオリンピックに向けて、再度体を鍛え直し、練習に励みました。しかし、運動神経が抜群で、様々なスポーツでも活躍し、また、スケートでは、天才スケーターとも呼ばれ、ジュニアの世界大会で優勝するなど順調に力を付けてきた高木選手は、今まで通りの練習方法やスケートフォームにこだわり、変わることを怖がっていました。

そんな中、出会ったのが、オランダからナショナルチームのコーチとして来たヨハン氏でした。高木選手は、ヨハンコーチの厳しい練習に食らいつき、めきめきと力を付けたのでした。

しかし、高木選手の前には、スピードスケートの絶対女王と言われたオランダの“ビュスト”がいました。高木選手は、練習を重ねる中で、「今の自分は世界チャンピオンになる自信がない。“ビュスト”は強いし」とコーチに悩みを打ち明けたようです。そんな弱気になっている高木選手に対して、ヨハンコーチは、「同じ人間ができているんだから、私もできると思わないか」と言ったんですね。その言葉に、高木選手は、はっとさせられたようで、「同じ人間だから勝てる」「自分もできる」と思い始め、本気でスケートと向き合い、今までのことにとらわれず、いろいろなことに取り組んだようです。そして、オリンピックでの3つのメダル、世界選手権優勝という快挙を成し遂げたのでした。

高木選手のソチオリンピックから、ピョンチャンオリンピックまでの4年間は、自分を変えるために、今まで経験したことのない程の苦しいトレーニングを重ね、自分を進化させ、新たな自分を作り上げた4年間だったと思います。私が、こうした高木選手から教えられたことは、「人は、意識を変えることで、目の前に立ちはだかる壁を突破できる」ということです。高木選手のような、「日本人初」、「世界一」とかということではなくても、私たちが夢や目標を目指すとき、「意識を変える」ことは必要だと思います。

皆さんは、どうですか？はじめから、諦めていませんか。同じ仲間、同じ人間ができること、自分にもできるとは思いませんか。ぜひ、意識を変えて、目標に向け、挑戦してください。



保護者の皆様へ

学校開放

6月1日(金)・4日(月)・5日(火)の3日間

第2回参観日

6月20日(水) 校長講話・講演会(三四六先生)・学年・学級PTA
※ 詳細につきましては、後日ご案内いたします。